

Biolux OTOtronパーソナルケア ユーザーズマニュアル Ver 1.1



この度は、Biolux OTOtronパーソナルケアをお求め頂きありがとうございます。

このマニュアルは、Biolux OTOtronパーソナルケアをお求め頂いた方に向けて書かれています。以下、Biolux OTOtronシステムの使用方法について解説します。

お客様が、正しく機材をご利用いただけるよう、機材をご使用になる前に、本マニュアルの 内容を必ずご一読くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、本マニュアルの内容は更新される場合がございます。予めご了承くださいませ。

【目次】

- 1. ご使用についてのお願い
- 2. 機材の保証・修理について
- 3. 本マニュアルの内容について
- 4. 機材を確認する
- 5. 機材のセットアップ
- 6. OTOtron音響セラピーのやり方
- 7. 機材の充電方法
- 8. トラブルシューティング

1. ご使用についてのお願い

①購入後は機材の充電をしてください。

購入後は、後述する<u>「機材の充電方法」</u>を参照し、最初にスピーカー機材の充電を行ってからOTOtronをお使いください。

②イヤホンは絶対に使わないでください

OTOtron CDは、生体に共振をもたらすデジタル音源(イーマ・サウンド®)を収録しています。このCDを聞く場合は、必ず専用のOTOtronスピーカーとペアでお使いください。 イヤホンやヘッドホンで直接耳からこのCD音を聞かないでください。

③スピーカーを動かして使用しないでください。

OTOtronスピーカーは、動かして使用せず、<u>「OTOtron音響セラピーのやり方」</u>の手順に 従い、<u>動かさずに喉元とおへその上に置き、スピーカーをふったり動かしたりせずに</u>使用 して下さい。また、使用できる色も紺色と緑色のみとします。

④スマホ等の他メディアへコピーしないでください。

OTOtron CDは、音源の収録時に特殊な処理を施しており、スマホに取り込んだり、メディアを不正にコピーすると本来の音響効果が失われてしまいます。音源の再生にはCDプレーヤーをお使いください。

また、OTOtron CD音源の著作権は株式会社イーマに帰属します。Biolux株式会社は株式会社イーマ・サウンドから使用許諾を受けて利用者に提供しています。この音源再生には専用スピーカーの使用を前提としますので、音源のコピー及び、変更・改良は禁止です。

⑤運転中は絶対に使わないでください。

OTOtron CDの音源は、身体に共振することでリラクゼーション作用をもたらして強い眠気を催すことがあります。車やバイクなどの乗り物を運転中には絶対にこのCDを聞かないでください。後部座席で運転していなくても、同様に禁止ます。

⑥営業行為の禁止。

OTOtronパーソナルケアセットは、個人の方がご自宅でイーマ・サウンド®音響セラピーを 手軽にセルフケアを行うために開発されたものです。

Biolux社がイーマ・サウンドセラピー養成講座受講生へ提供する音源のフルセットとは内容が

異なります。

そのため、Biolux株式会社では、OTOtronパーソナルケアセットを使った第三者に対する営業行為及び施術を固く禁止しています。セルフチューナー商品、パーナルケア商品、CD、アプリを使用した、施術メューとしての提供は禁止です。

2. 機材の保証・修理について

①保証の範囲

Biolux OTOtronシステムは、機材の購入から一年間、自然故障について保証をいたします。 自然故障とは、通常の使用方法において、突然機材が使えなくなった場合を指します。いわ ゆる、落下・水没や強い衝撃、過電圧の充電による電気回路の故障や、機材の扱い方による 物理的な破損は保証の対象とはなりません。

自然故障の保証範囲は、専用スピーカーのみを対象とさせていただきます。無線通信用の Bluetoothトランスミッターにつきましては、メーカー保証に準ずるものとします。

機材の接続・充電用のケーブル類は消耗品です。使用に伴う断線など、正しく接続、充電などができなくなった場合には、同等の該当ケーブルをお買い求めください。

②保証の適用

機材の故障について、当社より保証を受ける場合には、物理的に破損している場合であって も、必ず機材を当社までお送り下さい。

自然故障に該当する場合には、当社で必要な修理対応を行い、修理品をお送りします。

恐れ入りますが、故障した商品を発送する際の配送料、ならびに有償修理を行う際の振込手 数料はご負担ください。

また、有償にて修理を承る場合には、修理の前に修理代金をお知らせします。

③機材の水没

OTOtronの機材は防水処理がされていません。水没には十分にご注意ください。 万が一、機材を水没させたことによる故障は、すべて有償による修理または、該当機材の買い替えが必要となります。予めご了承くださいませ。

4水バッグの破裂

OTOtronスピーカーの前面には専用の水バッグが内蔵(下図青枠点線部分)されています。



スピーカー前面のLEDカバー内側に入っているため、身体の上に置いても、水バッグが直接

擦れることはありません。洋服の素材によってごく僅かに触れる程度です。

水バッグフィルムは抗菌性のあるフィルム素材で作られています。何かしらの理由により、 水バッグが破裂した場合には、漏れた水がスピーカー内部に入り込まないよう、タオル等で 水気を拭き取り、購入された販売店へご連絡ください。有償にて、水バッグの交換を承りま す。また、交換費用も購入された販売店へお問い合わせ下さい。

*スピーカーの分解行為は禁止します。カバー内部には電子部品が内蔵されているため、ご自分で水バッグを交換することはできません。スピーカーを分解した場合はすべての保証が受けられなくなりますので、ご注意ください。

⑤高熱、多湿な場所への放置

真夏の自動車内や、ストーブなどの暖房器具のそば、ガスコンロなどの火気のそばに、あるいは、お風呂場のような湿気がこもる場所に機材を放置しないでください。高温、多湿により、バッテリーの破裂や、発火、機材の故障が発生する危険性があります。機材の取り扱いにはご注意下さい。

⑥機材の落下等による物理的破損

機材の落下による破損については、故意・過失を問わず、保証期間内であってもすべて有償 での対応となります。

(7)Bluetooth接続の音切れ・切断

極端に広いお部屋や、電波の反射を遮るものが多いお部屋では、スピーカーのBluetooth接続が切れてしまう場合がございます。Bluetooth接続が切れてしまう場合の対策については後述しますが、利用環境の要因による音切れは、Bluetooth規格に拠るものであるため、製品保証の対象とはなりません。予めご了承くださいませ。

⑧スピーカーやトランスミッターの経年劣化

Biolux OTOtronシステムで使用する専用スピーカーやBluetoothトランスミッターには、内部 に小型のバッテリーを内蔵しています。本体の充電により、繰り返しお使いいただけます が、内蔵するリチウムポリマーバッテリーは充電するにつれ徐々に充電性能が劣化します。

専用スピーカー、トランスミッター共にこの内蔵バッテリー単体の交換はできないため、当社にスピーカーの在庫がご用意できる場合には、有償にて交換を承ります。

Bluetoothトランスミッターは、当社推奨品がモデルチェンジにより同一品が提供できない場合はその時点で利用可能な同等品をご用意させていただきます。

⑨機材修理や問い合わせについて

この商品の製造元会社は、Biolux株式会社です。

修理についてのご依頼、質問等は、購入されたサロン、ショップへ直接お問い合わせ下さい

3. 本マニュアルの内容について

①内容の帰属

本システムのすべての知的財産権はBiolux株式会社に帰属します。技術保護の観点から、当社の許可なく、OTOtronスピーカーの画像・映像を動画サイトやSNSへ投稿しないようにお願いいたします。

②転載の制限

本マニュアルに記載されている内容・画像を含むすべてのコンテンツを他メディアに無断転載することを禁止とします。

③マニュアルの改訂

本マニュアルの記載内容は、音源の更新等により、予告なく更新される場合があります。 予めご了承くださいませ。

4. 機材を確認する

4-1. 同梱物の確認

Biolux OTOtron パーソナルケアには、以下のものが含まれています。 内容をご確認ください。



①音源CD

個人の方がご家庭でOTOtronセラピーを楽しむめのパーソナルケア音源が収録されています。CDプレーヤー(別売)で再生します。

*この音源CDの音は、絶対にイヤホンで直接聞いてはいけません!

②ステレオ延長ケーブル (白または黒)



CDプレーヤーと、Bluetoothトランスミッターを接続するためのケーブルです。 *長さ1mほどのケーブルが付属します。

③USB充電ケーブル

後述するUSB充電器と共に、OTOtronスピーカーや、Bluetoothトランスミッターを充電するためにお使いください。

④OTOtronスピーカー



イーマ・サウンド音響セラピー用に開発された専用スピーカーです。 専用のLED回路と、スピーカー前面に専用の水バッグを内蔵しています。



注)使用前に必ず水パックが内蔵されているかご確認下さい。 確認出来ない場合、販売元のサロンへお問い合わせ下さい。

⑤Bluetoothトランスミッター



OTOtronスピーカーに無線で音を飛ばすためのトランスミッター(無線接続装置)です。 $*_{\text{IHi-Going製}}$ または、 $_{\text{ITaoTronics}}$ のいずれかとなります。

⑥USB充電器

OTOtronスピーカー本体、および、Bluetoothトランスミッターを充電するために充電器が付属します。OTOtronスピーカーは連続駆動で5時間程度。トランスミッターはおよそ20時間程度動作します。

その他に必要なもの

別途、CDを再生するためのCDプレーヤーと、OTOtronスピーカー内蔵のLEDを点灯させる ために単4電池が必要となります。詳しくは、後述します。

4-2.【重要】別途ご用意頂く必要のあるもの

4-2-1. CDプレーヤー



Biolux OTOtronパーソナルケアは、音源再生用にCDプレーヤーが別途必要となります。

お手持ちのオーディオや、パソコンのCDドライブ、単体のCDプレーヤーなどを別途ご用意ください。

後述するBluetoothトランスミッターを接続するため、<u>イヤホンジャックが付いたCDプレーヤ</u> <u>が必要</u>です。写真にあるようなポータブルタイプがオススメだと思います。

Biolux OTOtronのCD**には、特殊な音源処理が施されており、スマホに転送して使うことはできません。音源の再生には、必ず**CDプレーヤーをご利用ください。

<mark>また、CD音源をイヤホンやヘッドホンで再生してはいけません。</mark> OTOtronのCD音源を再生する際は必ず専用スピーカーをご利用ください。

CDプレーヤーをお持ちでなければ、Amazon等から安価に入手が可能です。 https://amzn.to/2qoEgEM

4-2-2. 単4形二ッケル水素充電池と充電器

Biolux OTOtronスピーカーは、音源の効果を最大限に活かすためLED電子基板を内蔵しています。このLEDを点灯させるため単4サイズの電池が2本必要です。

LEDは付属のアルカリ乾電池でも点灯可能ですが、連続点灯でおよそ5時間くらいで電池が切れてしまうため、日々お使いになる方は、"ニッケル水素充電池"という充電可能な単4形の電池と充電器を別途ご用意いただくことをオススメします。





ニッケル水素充電池は、Amazonなどからお求めいただくことができます。 スピーカー 1 台につき 2 本のニッケル水素充電池が必要です。

※ニッケル水素4本を満充電しても、電気代は1円以下です。

ニッケル水素充電池は、1.2Vで1000mAh以上のものをご用意ください。

★ニッケル水素電池(8本)

https://amzn.to/2kRUGml

★充電器

https://amzn.to/2mg3xg1

★二ッケル水素単4電池(8本)付き充電器セット

https://amzn.to/2m3C0R7







5. 機材のセットアップ

次にスピーカー機材のセットアップ方法について解説します。

5-1. CDの音源再生は停止しておく

まず、<mark>スピーカー機材を接続する際は、CDの音源再生を停止</mark>しておくようにしてください。CD音源が再生されていると、稀にスピーカーのセットアップが上手く行かないケースがあるためです。

5-2. CDとステレオケーブルの接続

次に、CDプレーヤーのステレオジャックに、ステレオケーブルを接続します。



*ステレオジャックは奥までしっかりと挿し込んでください。

5-3. トランスミッターの接続

前項で接続したステレオケーブルの先に、トランスミッターを接続します。





ステレオケーブルを接続後、上記のように接続できていればOKです!

5-4. OTOtronスピーカーとトランスミッターのペアリング

次に、OTOtronスピーカーと、トランスミッターを無線接続(ペアリング)します。 無線接続は慣れてしまえば簡単です。順を追って説明します。 まず、OTOtronスピーカーの電源を入れます。

スピーカー本体の電源は赤色の点線で囲った部分です。



電源ボタンを押すと「POWER ON(パワーオン)」とスピーカーが言いスピーカーの電源がON になります。

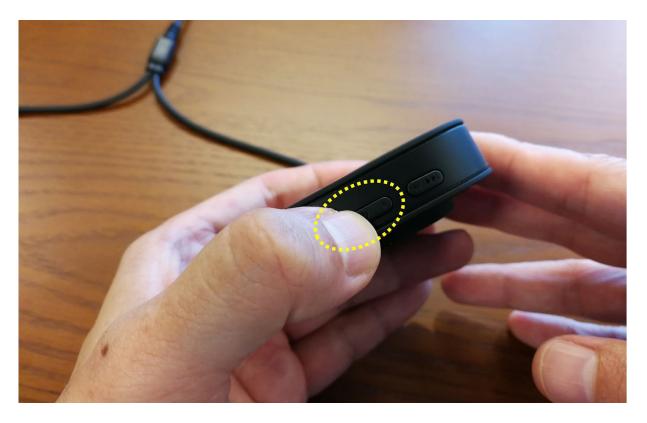
スピーカーの電源をON/OFFする際は、なるべく机などの平らな場所にスピーカーを置き、スピーカーのユニットを持ちながら行って下さい。





スピーカーの電源が入ると、電源の下にあるLEDが青色で点滅します。 このスピーカーと接続できるBluetooth機器(トランスミッター)を待っている状態です。

(A) Hi-Goingのトランスミッターをお使いの方



トランスミッターの電源は、前方の側面にある3つ並んだスイッチの中央、点線で囲った部分です。

2~3秒長押しすることで電源が入ります。



トランスミッターの電源が入ると、電源ボタンに付いている小さなLEDが青く点滅します。

ペアリング完了しばらくまで待ちましょう。



両者の電源が入った状態で、しばらく待つと、スピーカーから「ペアリング」という音声が聞こえ、ペアリングが完了します。ペアリングに掛かる時間は、数秒から10秒くらいです。

ペアリングが完了すると、スピーカー電源が青色になりLEDが断続的に点滅するようになります。

スピーカーのペアリング操作は、素材の扱いに慣れてきたらスピーカーとトランスミッター

のペアを同時に電源ONして構いません。

ペアリングが上手く行かない場合は、一旦スピーカーとトランスミッターの電源を切ってや り直してみて下さい。

スピーカーやトランスミッターのバッテリーが十分にある状態で、上手くペアリングできない場合には、後述の「トランスミッターがペアリングしない!」もご一読ください。

B. TaoTronicsのトランスミッターをお使いの方



TaoTronics製トランスミッターの電源は、本体の側面にある丸い**ON/OFF**ボタンです。3 秒 長押することで電源が入ります。



トランスミッターの電源が入ると、黄色枠で囲ったAのLEDがゆっくりと点滅し、ペアリング済みのスピーカーと自動接続します。

ペアリング完了しばらくまで待ちましょう。



両者の電源が入った状態で、しばらく待つと、<u>スピーカーから「ペアリング」という音声が聞こえペアリングが完了します。</u>ペアリングに掛かる時間は、数秒から 1 0 秒くらいです。

ペアリングが完了すると、スピーカーのLEDは青色でLEDが断続的に点滅します。 トランスミッターのLEDは、Aと、SBCというLEDが点灯に変わります。

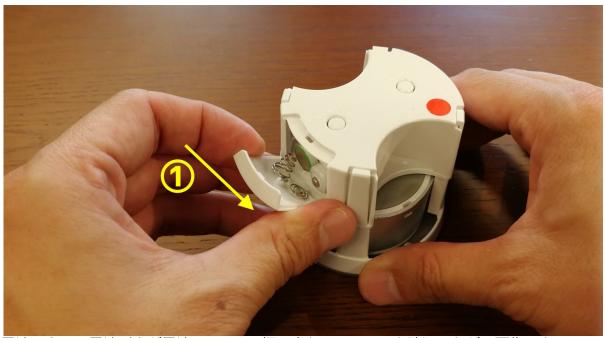
スピーカーのペアリング操作は、機材の扱いに慣れてきたらスピーカーとトランスミッターのペアを同時に電源ONしても構いません。

ペアリングが上手く行かない場合は、一旦スピーカーとトランスミッターの電源を切ってや り直してみて下さい。

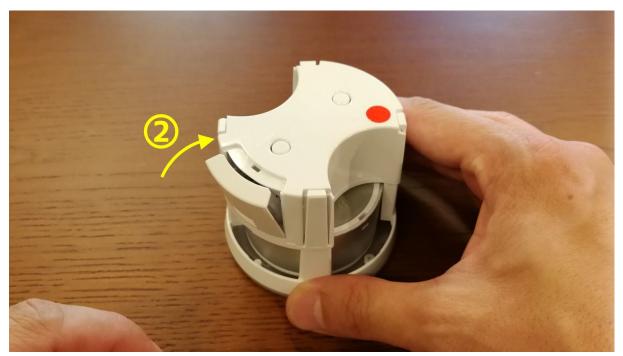
スピーカーやトランスミッターのバッテリーが十分にある状態で、上手くペアリングできない場合には、後述の「トランスミッターがペアリングしない!」もご一読ください。

5-5. OTOtronスピーカーにLED用電池をセットする





電池フタは、電池バネが電池のマイナス極に当たっているのを確認しながら画像のように、 まず斜めにフタを差し込みます。



電池バネに注意しつつ②のように電池フタを閉じていきます。



最後にフタを上から押さえて、完全に閉じてください。

5-6. OTOtronスピーカーの扱い方

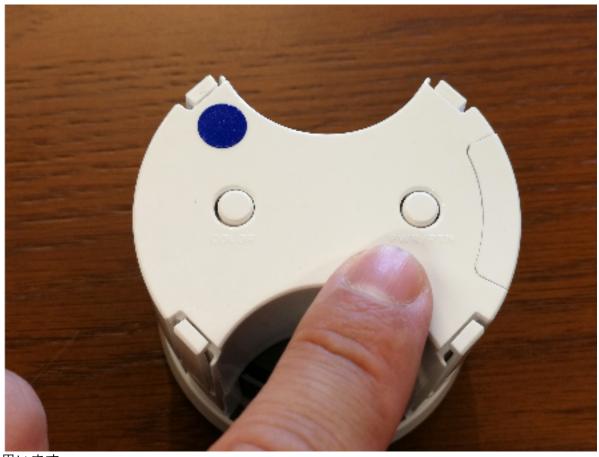
OTOtronスピーカーの基本的な使い方についてご説明いたします。



OTOtronスピーカーは、上面に2つのボタンが付いています。

5-7. PWR/PTN (パワー/パターン) ボタン

電池フタを向かって右側にした時、右ボタンにはPWR/PTNと刻印されているのが見えると



思います。

PWRを0.5秒ほど、ゆっくり押すと、LEDが全点灯します。

*使用中にボタンの誤操作が起こらないように、ボタンの反応速度を少しゆっくり目に設計しています。

PWR/PTNを押下するごと、<mark>全点灯→時計回り→反時計回り→消灯</mark>の順序でローテーションします。

*使用中にボタンの誤操作が起こらないように、ボタンの反応速度を少しゆっくり目に設計しています。

パーソナルケアでは、

LEDが時計回りで回転するモードにセットをしてください。

※時計回りとは、LEDを正面から見たときに時計回りということ。

5-8. COLOR (カラー) ボタン

左側のボタン(COLOR)は、色の切り替えを行うためのカラーボタンです。



LEDの点灯中に、COLORボタンを押下するたび、色が切り替わります。

① 白色 → ②紫色 → ③紺色 → ④青色 →⑤緑色 →⑥黄色 → ⑦橙色 → ⑧赤色

の順に変化します。(*このLED色は、身体のチャクラに対応しています)

パーソナルケアでは下の画像の通り

<mark>紺色または、緑色の時計回りにLED色をセット</mark>して下さい。



★ポイント

OTOtronパーソナルケアは、③紺色または、⑤緑色が基本カラーとなります。

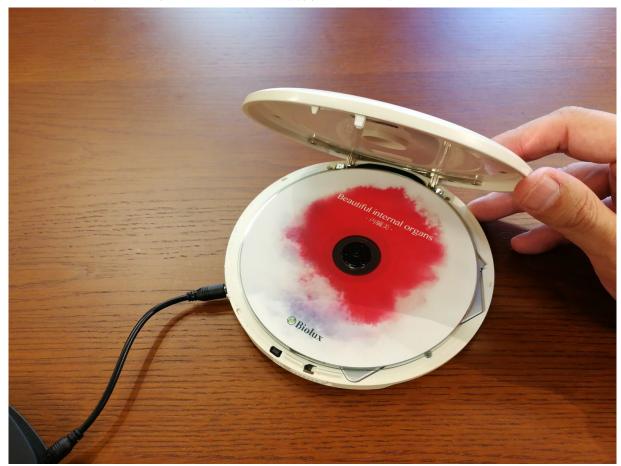
仰向けで鎖骨の間に置く場合は③紺色を。おへその上に置くときは⑤緑色です。 また、うつ伏せの状態で首の付根にスピーカー置く場合は③紺色。仙骨の上に置くときは、 ⑤緑色にセットします。体の任意の場所にスピーカーを当てる際は⑤緑色を使ってください。

LEDのカラー、回転モードにはそれぞれ身体に共振する意味がありますので、他のモード、 色はお使いにならないようにお願いします。

6. OTOtron音響セラピーのやり方

ここまでの段階で、機材の設定は完了です。

ここからは実際にCDを再生して、OTOtron音響セラピーを行う方法について解説します。



CDプレーヤーに、OTOtron CDをセットして再生します。

CDを再生して、スピーカーから音が鳴ることを確認してください。 スピーカーの再生音量は、**CD**プレーヤー側のボリュームで調整します。

音量は小さくても大きくても構いません。ごく小さな音でも効果はあります。 あまり大きな音が出せない環境にいる場合は、小さな音で再生しても構いません。

また、音が大きければ良いというものでもありません。スピーカーから流れる音量が不快にならない程度の音量に調整し、再生するようにしましょう。

OTOtron CDは、①3分、②5分、③7分の3トラック、合計15分で構成されています。各CDには、目的別の複合音源が収録されています。各トラックの音は長さの違いだけです。

忙しいウィークデーには3分。リラックスタイムには5分、休日は7分あるいは、CD全体を流してみる…など、ご自身のスタイルに合わせてお使いください。

6-1. スピーカーの載せ方①:鎖骨の間あたりに置く。





スピーカーは、イラストのように<u>紺色にLEDを正面から見た時に時計回り</u>でセットした状態で、鎖骨の中心あたりに置いて下さい。

これがもっともスタンダードな使い方です。

私たちの首周りには背骨や脊髄、太い神経や、食道、リンパ液など、身体にとって重要な組織が数多く存在しています。

この部分のエネルギーバランスが乱れると、私たちは【何となく調子が悪い】と感じてしま うのです。最初のうちは、この鎖骨のあたりにスピーカーを当てて、身体の変化を感じてみ ましょう。

イラストでは、仰向けの姿勢で使っていますが、座ったままでも構いません。その場合は、 右手(または左手)でスピーカーを持ち、LED面を鎖骨の中心に当てて使うようにします。

6-2. スピーカーの載せ方②:おへその上に置く。

下記スピーカー色を緑色へご変更ください。

【スピーカーLEDの色:緑色】



もう1つの置き方は、おへその上にスピーカーを置く方法です。 LEDは<mark>緑色、LEDを正面から見た時に時計回りで</mark>設定した状態で身体に置きます。

おへそは身体の中心にあり、小腸や大腸、腎臓など多くの臓器がこの近くに存在しています。ここへOTOtronスピーカーを置くことでイーマ・サウンドの共振音が内臓と全身へと広がって行きます。

座った状態で使う場合は、右手(または左手)にスピーカーを持った状態で、おへその上に LED面を当てて使うようにしましょう。

6-3. スピーカーの載せ方③:うつ伏せで使う場合。

【スピーカーLEDの色:紺色】



うつ伏せの状態でOTOtronスピーカーを使う場合は、仰向けで鎖骨の下に置いていた位置のちょうど背中側に<u>紺色にLEDを正面から見た時に時計回りで設定した</u>スピーカーを置きます。首の付け根あたりです。

下記スピーカー色を緑色へご変更ください。

【スピーカーLEDの色:緑色】



または、LEDを<mark>緑色にLEDを正面から見た時に時計回りで</mark>設定し<mark>仙骨</mark>の上あたりにスピーカーを置くようにします。

6-4. スピーカーの載せ方④:その他の場所へ置く

基本的な場所は、鎖骨の間か、おへその上あたりです。うつ伏せの場合は、首の付け根と、仙骨の上という解説をしました。それ以外の場所では、ご自身の身体で気になる部位、音を当てて身体が心地よいと感じる部分へスピーカーを当ててみて下さい。その場合LEDカラーは<mark>緑色、LEDを正面から見た時に時計回りで</mark>お使いください。

6-5. OTOtron音響セラピーをする時のポイント

OTOtron音響セラピーを行う時は、できるだけ頭の中を空っぽにして、音に全てを委ねて しまうのが重要なポイントとなります。

効果を期待したり、音響セラピーで自分の不調を治そう!…などと頭で考えないようにしてください。頭の中に仕事のストレスや、色々な考えが巡っても、セラピー中はその考えを追いかけるのを止め、音響の振動に身を任せてください。

6-6. OTOtronの体感

OTOtronセラピーを行うと、体が温かく感じたり、寝付きが良くなったり、情緒が安定したりと、様々な体感や変化となって現れてきます。

OTOtronには、イーマ・サウンド®という、生体に共振する特殊な音源が使われています。 OTOtronは、イーマ・サウンドを最大限に引き出す専用機材として開発されています。

OTOtronパーソナルケアは、ご自宅で手軽にこのイーマ・サウンド音響セラピーの技術を手軽に体感できるキットとして開発されています。

もし、体感が無くても焦る必要はありません。OTOtron CDに収録されている音は生体に共振する音なので、最初は何も感じなくとも、身体にはしっかりと共振音が浸透しています。

使い続けるうちに、また体の感覚が変わってくると思います。

CDの効果はよく分からないけれど、音を当てていたら眠ってしまった…という方もよくいらっしゃいます。それは、意識では音の効果が分からなくても、体感として音響の振動を体が実感している証拠です。音響による共振作用によって身体の緊張が緩むためです。

現代人はストレスフルな環境下で生きているため、体の微妙な変化に対して鈍感になっている方も少なくありません。OTOtronを使っていくうち、体が本来持つ生体リズムを取り戻し体調も変わって来ると思います。ぜひ、ご自身のペースでぜひ続けてみて下さい。

CDのトラックには3分、5分、7分という3つのトラックが収録されています。 音源の長さによる効果の違いはありません。

ただし、OTOtron CDの音を長く身体に当てることにより、音響振動がより深く身体へ浸透します。時間経過と共に音源と身体の共振度合いがどんどん深まっていくのです。

7. 機材の充電方法

OTOtronスピーカー本体、OTOtronスピーカーのLED用充電池(*ニッケル水素電池の場合)、Bluetoothトランスミッターは、全て充電を必要とします。

【駆動時間の目安】

OTOtronスピーカー本体:約5時間(※再生する音量により多少変動する)

LED用充電池:全灯モードで約3.5~4.5時間程度(使用する色により異なる)

Bluetoothトランスミッター:約20時間

では、それぞれの機材について充電方法を見てみましょう。

7-1 OTOtronスピーカー類の充電時の注意!

OTOtronスピーカー本体、Hi-GoingのBluetoothトランスミッターは、USB-MicroBという端子が使われています。



画像を良く見ればお分かりのように、このコネクタ端子は、上下の向きがあります。 スピーカー類を充電する際は、このコネクタの向きが逆にならないよう、十分にご注意下さい。反対向きに無理やり差し込むと機器の充電口を破損してしまう場合があります。

故意・過失を問わず、ケーブルを押し込んだことで充電口が破損した場合は機材の保証対象 とはなりません。どうぞ、お気をつけくださいませ。

TaoTronics製のトランスミッターをお使いの場合は、USB-Cという充電コネクタとなります。

前述の、USB-MicroBと異なり、USB-Cはコネクタの上下区別がありません。 充電の際、USB-MicroBと、USB-Cのケーブルを間違えないように、ご注意ください。



7-2. OTOtronスピーカー本体の充電

OTOtronスピーカーは、

- (A) 音が出る部分のスピーカー本体
- (B) スピーカーカバーに内蔵されたLED回路

の2つの電源を必要とします。ここでは、(A)スピーカー本体の充電についてです。

スピーカー本体の充電口は、写真画像の位置にあります。

OTOtronスピーカーを机などの平らな場所に置き、USBコネクタの向きに注意して、コネ クタをしっかり接続しましょう。機材セットに付属するUSBアダプタ、USBケーブルを 使って充電を行って下さい。







充電中は、**電源下の**のLED(右図赤枠参照)が赤く点灯し、充電が終わると消灯します。

スピーカーにUSBケーブルを差し込むときは、電源投入のときと同じように、必ずスピーカー本体を持ってUSBケーブルを差し込むようにしてください。

7-3. OTOtronスピーカーLED用電池の充電(充電池を使う場合)



OTOtronスピーカーのLEDを点灯させるために使うニッケル水素充電池を使う場合は、定期的な充電が必要です。

「単4形ニッケル水素充電池と充電器」で述べた充電器を使って充電を行ってください。



★LED用電池交換の目安

LED用電池は、LEDの消灯または、LEDの発光がチラつく場合、または、ボタンを押下した時に、色や発光パターンが変わらなくなった時が交換の目安となります。

駆動時間の目安は、LED全灯モードで3.5~4.5時間程度。 LED回転モードで4~5.5時間程度です。

【重要】保管時は、必ずLED用の電池を外してください!

LEDを駆動する電子基板は、実際の使用を考慮し、LEDの消灯中もすぐに再点灯できるよう電子基板のマイコンがスタンバイモードで待機しているため、少しずつ電力を消費してゆきます。このため一回の使用が終わりましたら、必ずLED用電池を取り出しておくようにしてください。わりましたら、必ずLED用電池を取り出しておくようにして

7-4. Bluetoothトランスミッターの充電

(A) Hi-Goingのトランスミッターをお使いの場合

Bluetoothトランスミッターは、背面にあるUSB充電口にUSBコネクタを挿し込んで充電し



ます。スピーカーと同様、コネクタの向きにはご注意ください。

なお充電中は、トランスミッター正面の電源ボタンのLEDが赤色に点灯します。充電が終わると消灯します。



(B) TaoTronicsのトランスミッターをお使いの場合

TaoTronics製トランスミッターの場合も、背面向かって右側に充電用のコネクタがあります。前述の通り、USB-Cの充電ケーブルを使用しますので、ケーブルを間違えないように



ご注意ください。USB-Cはコネクタに上下の向きはありません。

充電中は、本体背面にある黄色点線枠のLEDが点灯します。



充電が完了すると消灯しますので、USB-Cケーブルを外して保管しましょう。

7-5. Bluetoothトランスミッター充電に関する注意



Bluetoothトランスミッターは、<mark>充電しながら使用をしない</mark>でください。

このBluetoothトランスミッターを充電しながら使用すると、交流電源のノイズが音に混入してしまうことが分かっています。(Hi-Going、TaoTronicsどちらも共通です)

OTOtron CDを使う前に、Bluetoothトランスミッターを充電してからお使いください。

8. トラブルシューティング

8-1. Bluetoothの接続が途切れてしまう

OTOtronパーソナルケアは、CDから出力されるイーマ・サウンド音源をBluetooth通信を使って、OTOtronスピーカーからワイアレスで出力します。

このBluetooth通信によるワイアレス出力は、幾つかの要因で音の再生が途切れてしまうことがあります。

ここでは、代表的な事例を元に、Bluetoothの音切れ対策について解説します。

8-1-1 電子レンジ等の影響による音切れ

Bluetooth通信は、2.4GHzという周波数を使って無線通信を行います。 この2.4GHz帯は、電子レンジ、固定電話の無線子機、Wi-Fiにも使われる周波数帯です。

Bluetoothは、データを細切れにして伝送することで、Wi-Fiなどの干渉があっても極力影響を受けないように設計されていますが、電子レンジなど、強力な電磁波を発生する機器が近くにあると顕著に音切れを起こしてしまう可能性があります。

OTOtronを行う場所の近くには、

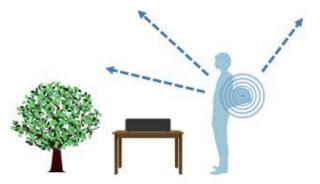
- ・電子レンジを置かない。(動かせない場合は、OTOtron使用中に電子レンジを使わない)
- ・スマホや無線LANを使うゲーム機、プリンタなど2.4GHz帯のWi-Fiを使う機器が多数ある場合は、できる限りそれらの装置の電源をOTOtron使用中はオフにする。
 - →802.11aへ対応しているなど、可能な場合は、2.4GHzではなく、5GHzの通信に切り 替えて使用する。
- ・固定電話の無線子機はOTOtron使用中は極力使わない。あるいは、有線の固定電話のみ使う。

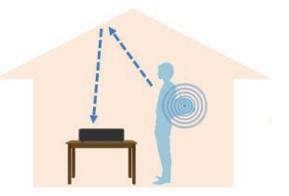
などの対策を取って下さい。

8-1-2 屋外など、極端に広い場所での音切れ

Bluetoothは、Wi-FiやLTE通信に比べて、消費電力が低い代わりに、電波の到達距離が10~15mほどしかありません。非常に微弱な電波で通信をするという特徴があります。

このため、Bluetooth電波の反射が見込めないような極端に広いホールのような場所や、屋外でこのシステムを使用すると、スピーカーから音切れが発生しやすくなることが予想され





ます。

これを防ぐには、

- ①部屋の中で電波が反射しやすい環境をつくる
- ②トランスミッターの位置や向きを変えてみる
- ③トランスミッターの接続ケーブルを延長する
- ④外部アンテナ付のトランスミッターを使う

などの対策方法があります。 それぞれの対策方法について解説します。

8-1-2-① 部屋の中で電波が反射しやすい環境を作る

Bluetoothの電波は微弱なので、壁などに反射した電波をスピーカーがキャッチすることでより安定して音が再生されます。

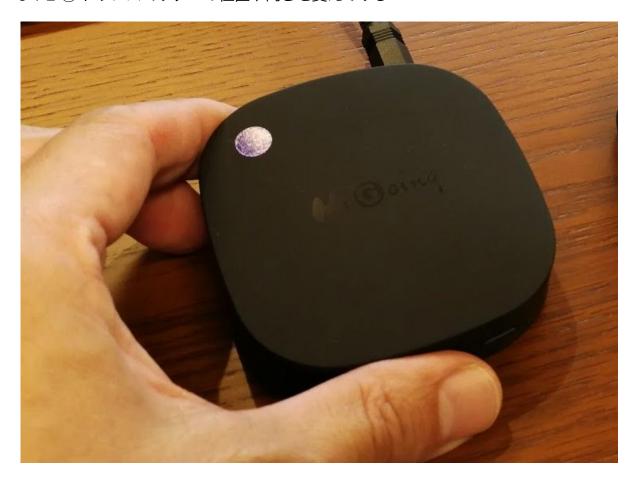
もし、OTOtronを使うスペースを間仕切り用のカーテンで仕切っている場合や、お部屋に毛足の長いカーペットや衣類や荷物が沢山ある場合など、電波を遮蔽するような障害物があると、Bluetooth通信が遮断されて、音切れが発生します。

音切れが発生する場合、お部屋にこうした障害物が無いかをチェックしましょう。



例えば、間仕切りカーテンがある場合、カーテンを開ければ電波が途切れないか、障害物を除去すれば音切れが解消されるかを1つずつ調べてみて下さい。そして、可能であれば、布地のカーテンをパーティションに変更したり、電波を遮断しそうな障害物を使用スペースの近くから排除するなどの工夫を行って対策しましょう。

8-1-2-② トランスミッターの位置や向きを変えてみる



障害物の可能性が低い場合には、トランスミッターを平置きしたり、壁などに立て掛けたり という具合に、トランスミッターの位置と向きを調整してください。

8-2 トランスミッターがペアリングしない!

BluetoothトランスミッターとOTOtronスピーカーがペアリングせず、LEDがチカチカ点滅したままの状態から進まない場合が稀にあります。

通常は、ペアリングが設定されていれば、数秒~10秒程度で勝手にペアリングします。

しかし、通信状態が悪い場合や、何かしらの理由でペアリングが失敗している場合は、以下 をお試し下さい。

8-2-1. 「ペアリング」は言ったのにスピーカーから音が出ない!

トランスミッターとスピーカーのペアリングが完了すると、スピーカーから「ペアリング」という音声が聞こえますが、「ペアリング」が鳴ったのに、スピーカーから音が出な



い場合は、トランスミッターの電源LEDを確認してください。

Hi-Goingトランスミッターで、このLEDが慌ただしくチカチカ点滅を繰り返している時は、Bluetooth電波の送信が一次停止されていることを示しています。トランスミッターの電源ボタンを短く1回押すと、Bluetooth電波の送信が再開されます。

Bluetooth電波の送信が再開されると、トランスミッターのLEDは数秒に1回点滅するように変わるハズです。この時、スピーカーから音が鳴ることを確認しましょう。

8-2-2. 電源を入れ直す。

ペアリングに失敗しているとき、まず行って欲しいことは、該当するスピーカーとトランス ミッターの電源を一度切って入れ直すことです。前回ペアリングに成功していれば、殆どの ケースでは電源の入れ直しで再ペアリングは成功します。

8-2-3 トランスミッターのモードを確認する。

(A) Hi-Goingの場合

トランスミッターの電源LEDが、赤青交互で点滅している場合は側面の通信切り替えスイッ



チが受信モード(RX)になっているハズです。側面のスライドスイッチをご確認下さい。

Bluetoothトランスミッターは、送信モード(TX)の位置で使用します。

上図のように、RXにセットした状態だと、いつまで経ってもペアリングできません。一度 トランスミッターの電源を切り、TXに切り替えてから再度ペアリングをお試し下さい。

(B) TaoTronicsの場合

トランスミッターの電源を投入後、AのLEDが早く点滅している場合、側面の通信切り替え



スイッチが受信モード(RX)になっていないかご確認ください。

Bluetoothトランスミッターは、送信モード(TX)の位置で使用します。

上図のように、RXにセットした状態だと、いつまで経ってもペアリングできません。一度トランスミッターの電源を切り、TXに切り替えてから再度ペアリングをお試し下さい。

8-2-4. ペアリングボタンを押す。

(A) Hi-Goingの場合

電源の入れ直しや、モード設定がTXでもペアリングできない場合は、モード切り替えスイッチの横にあるペアリングボタンを1回押下してください。

(B) TaoTronicsの場合

電源の入れ直しや、モード設定がTXでもペアリングできない場合は、トランスミッターの電源を入れてすぐに、モード切り替えスイッチの横にある電源ボタンをマウスのダブルクリックのように2回連続で押して下さい。

これら全ての操作を行ってもペアリングができない場合は次のページの手順に従い、トランスミッターのペアリング設定をリセットしてください。

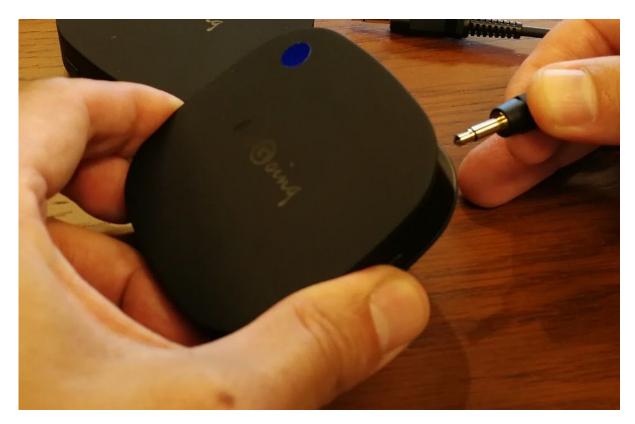
8-3. トランスミッターとのペアリングをリセットする

トランスミッターと、OTOtronスピーカーはペアリングされた状態で出荷されています。 しかし、スピーカーを修理した場合や、何かしらの理由によりトランスミッターとのペアリングがうまく接続できず、やり直したい場合には、以下の手順でペアリングをリセットして下さい。(以下リセットの手順は、Hi-Going、TaoTronicsともに共通となります)

【トランスミッターの再ペアリング手順】

- ① トランスミッターのケーブルを外す。
- ② トランスミッター、OTOtronスピーカーの電源をオフにする。 (Bluetoothの信号を発する装置をすべてオフにします)
- ③ トランスミッター右側面の TX・RXスイッチを、RXにする。
- ④ トランスミッターの電源を入れて、ONになったらすぐ切る。
- ⑤ 10秒待つ。
- ⑥ トランスミッター右側面のTX・RXスイッチをTXにする。
- ⑦ OTOtronスピーカーの電源をオンにする。
- ⑧ トランスミッターの電源をオンにする。
- ⑨ トランスミッター右側面にあるペアリングボタンを 1 回押す
- ⑩ スピーカーが「ペアリング」と言ったらペアリングされれば再設定完了です。

1. トランスミッターのケーブルを外す



2. トランスミッター、OTOtronスピーカーの電源をオフにする



トランスミッター、OTOtronスピーカーの電源をオフにして下さい。 (周囲にあるBluetoothの信号を発する装置がある場合はすべてオフにします)

3. トランスミッター右側面の TX・RXスイッチを、RXにする。



4. トランスミッターの電源を入れて、ONになったらすぐ切る。



トランスミッターの電源を入れて、LEDの点灯を確認したらすぐに電源を切ります。

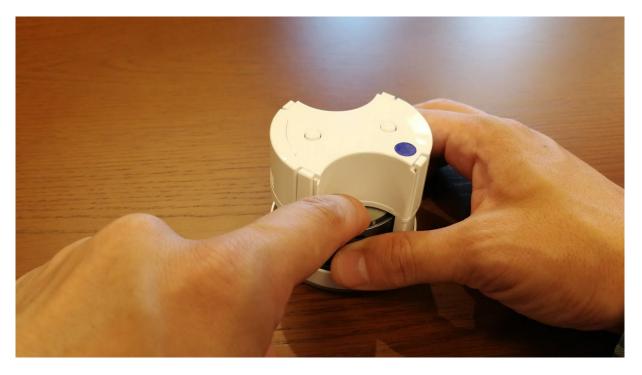
5. 10秒待つ。

トランスミッターの電源を切ったら、そのまま10秒間待ちましょう。

6. トランスミッター右側面のTX・RXスイッチをTXにする。



7. OTOtronスピーカーの電源をオンにする。



トランスミッターと同色のシールが貼ってあるスピーカーの電源を入れます。

8. トランスミッターの電源をオンにする。



Hi-Going TaoTronics

9. Hi-Goingは、右側面にあるペアリングボタンを1回押す



8-3-10. TaoTronicsは、電源ボタンをダブルクリックでペアリングです





ペアリング中のトランスミッターとスピーカーを近づけ、ペアリングが完了するのを待ちます。

スピーカーが「Pairing(ペアリング)」と言ったら、とペアリング完了です。

8-4. スピーカーから音が出ない

CDプレーヤー本体の再生に問題が無い場合には、ケーブルの接続方法や、スピーカー、トランスミッターのバッテリー切れなどについて以下を調べてください。

- 8-4-1 ケーブルが正しく接続できていない
 - → 「機材のセットアップ」
- 8-4-2. スピーカーとトランスミッターのペアリング失敗
 - **→「トランスミッターがペアリングしない!」**
- 8-4-3. スピーカーのバッテリーが切れている
 - → 「OTOtronスピーカー本体の充電」
- 8-4-4. トランスミッターのバッテリーが切れている
 - → 「Bluetoothトランスミッターの充電」